

ギター文化館発 『常世の国の恋物語百』

朗読舞劇団「ことば座」

三年ぐらい住んでもいいかと、ふらりと常世の国に迷い込んだ脚本家白井啓治が、一人の聾の舞姫・小林幸枝に出会い、常世の国の風景をモチーフに百の恋物語に挑戦することになった。 作者自らの朗読に舞姫小林幸枝が心にその声を聞いてふるさとに咲く百の恋物語を舞う。



ことば座は、物語に紡がれてある未来の夢を朗読と手話による舞という新しい表現による自由で自在な舞台を創造していきます。